



ロイマタとはニュージーランド先住民のマオリ族の間で愛と友情の絆を表すお守りの名前です。

第2号

2007年2月20日

【発行】

特定非営利活動法人あい・ぽーとステーション

〒106-0031 東京都港区西麻布 2-24-25-509

TEL 03-6657-8539 FAX 03-3499-8539

E-mail: station@ai-port.jp

URL: <http://www.ai.port.jp>

子育て・家族支援者養成講座事務局

昨年十二月二日、大日向雅美あい・ぽーとステーション代表理事の公開講座『母親一人の「子育て」から皆で支える「子育て」へ』が札幌で開催されました。その一部を皆様に紹介いたします。

子育ては「楽苦美」(ラグビー)

子育ては楽しいことと苦しいことの両方があつて、「楽苦しい」ものと思っております。ところが、「元ラグビー日本代表の大八木敦氏と対談をしたとき、最後に「美」の一時を加えると、「楽苦美(ラグビー)」になることを教えていただきました。ラグビーはチームプレー。一つのボールを皆で追いかけて、守ります。子育ても主役は子ども、私達は皆で力を合わせて子どもを見守り、力を尽くしていけば、振りかえって人生の美しいひと時とすることが出来ますね。そうして「支え・支えられるお互いさま」のこばを胸に子育て支援を考えていけたらと思います。



【公開講座の様子】

しかし、二三十数年出生率は低下し続け、親たちは育児不安、育児ストレスを強め、虐待等、気が重くなるような事件の多い昨今です。また、「子育て支援なんかするから親を甘やかす」という声もあり、価値観の違いを認めながらの支援は難しいものがあります。このような厳しい現実の中で若い人たちが一番求めているものは、やはりぬくもりのある人の心に分れることではないでしょうか。

たった一人でも…

ある保育園で二歳児を虐待していたお母さんがいました。子どもは乳児院に引き取られました。虐待をしたお母さんをケアする施設はありません。アル中もあつたこのお母さんを園長先生が引き取り、園で仕事を与え、支払う賃金を皆で拠出し、彼女が規律ある生活ができるように支えたのです。

また、親の暴力に脅えて育つたある女性に生きる力を与えてくれたのは、いつも何気なく「ようがんばるとるな」と声をかけてくれた中学校の先生でした。

人間は確かに過去の影響を受けますが、その過去を作り変えることができるのも人間なのです。人は悲しい過去を経験したとしても、

その中に少しでもあつた幸せなことを思い出す力を持っています。たった一人でも自分を見守つて、気にかけてくれる人がいる、それだけで子どもは育つていける、人は生きていけるのです。あなたは大切な存在、ぎりぎりのところでよく頑張っているんだね、と伝えるには、まず悩んでいる親に寄り添って全身耳にして聴くことが大切です。

お母さんたちの声

ひとりの時間がない、話し相手がない、社会から取り残され、出口のないトンネルにいるみたい、と苦しんでいる専業主婦の支援として、孤独な子育てから解放される「ひろば」の常設化が必要です。さらに、お母さんのパワーやスキルを将来に役立たせるための講座、大人としての自分を取り戻すことができるような支援、これがとても大切だと思います。

働くお母さんは仕事も子育てでも、大変です。さらに悩ましいのは人々の心の中に重く巣食っている「三歳児神話」、これをいかに乗り越えていくかがポイントです。母親が心をこめて子どもを愛する大切さはどんなに強調してもしきれものではないでしょう。同時に子どもには母親だけではなく、父親の愛、家族の愛、地域の人々の愛も必要なのです。

少子化を克服したフランス

少子化、それはある意味で先進国の宿命です。近年出生率が回復したフランスの特徴は、女性の復職時の働き方にありました。フランスの女性は短時間正社員、在宅勤務も認められ、多様な働き方ができるための保育サービスを社会が支援したこと、つまり今の社会の生

きづらさの原因につぼを押さえて対策を考え、結果として出生率をアップさせたのです。

行政、企業のバックアップのもと、女性だけでなく、男性も働き方を見直し、男女共同参画で無理なく子育てができる社会、そして地域みんなで子どもの育ちを見守ることに喜びを見出せる社会を作っていくこと、子育て支援の真髄はここにあるのではないのでしょうか。

〔質疑応答〕

受講生 常設化されている「ひろば」はあるのですか。あるとすれば、財政的な運営はどのようになされているのですか。

大日向 港区の私どもの『子育てひろば』「あい・ぽーと」は常設です。行政から補助金をいただいて運営しています。

受講生 今日のお話を伺って、子育て中の「専業主婦」は将来の「働く女性」なんだということと自覚し、地域での支援をとても意義あることと感じました。

大日向 私のお伝えしたいことを的確に捉えてくださり、大変嬉しく思います。

(講演要約事務局)



【公開講座の様子】

フロアーからも活発な意見が飛びかう

千代田区 子育て・家族支援者養成講座修了生対象の第一回バックアップ研修が二月六日（火）、開催されました。今回の研修参加者は十四名で、2組に分かれてのグループディスカッションは内容の濃いものとなりました。

テーマは「活動状況報告及び今後の活動や課題解決に向けたディスカッション」。講師は、「学童期の子どもの理解と指導者の技能」で講義をいただいた大妻女子大学助教授の岡健先生と、あい・ぽーとステーション代表理事・大日向雅美が担当しました。また、千代田区次世代育成支援担当課の中島課長、新治主査にもグループでの話し合いから加わっていただき、活動の様子や、今後の課題を皆で一緒に考えていくという姿勢ですすめられました。

すでに来年度の本格稼働を目指して、千代田区とあい・ぽーとで連携を取りながら支援者の活動コーディネートがスタートしています（概要は下記をご参照ください）。現在は、児童館で行う「一時預かり（理由を問わない）」と保育園の時間外担当や臨時職員の活動が主です。

グループの報告として、岡先生からは、施設から何を求められているかの事前情報をもっと提供してほしいという支援者の声と必要性を伝えてくださいました。また、特定の子どもを特定の人が見るこのスタイルもあるが、子育て支援の枠組みでは、一人の子どもが多くの人々に愛されるにはどうしたらいいか、子どもたちは何をしたら幸せになるのかを考えることが大事。それをどう地域の中につないでいくのが今後の課題となるが、そ

千代田区 バックアップ研修レポート

の力量を備えているのが支援者である皆さんだと期待している、とのことでした。

大日向代表からは、この千代田区の児童館での「一時預かり」が、親子の居場所と同じ場所で行われるという全国的にもめずらしい形であること、そしてそれはニュージーランドの「プレイセクター」で大事にしている「こ」に入ったら自分の



子どもと遊ぶのはやめましょう。皆で他の子どもと一緒に育てましょう」という雰囲気をもてる場になる可能性について話がありました。しかし、この二つの機能が一緒であることによつていろいろな課題も出てきます。支援者の皆さんは、どうか活動で抱えた課題や気づきなどをこの研修の場に持ち寄って、また元気になって、よりよい子育て・家族支援を続けていってください、とのことでした。この研修を受けた参加者数人の方からは、他の人の話が聞けたことで気づくこともあり、今後に役立ちそうとの感想をいただきました。

千代田区

あい・ぽーと

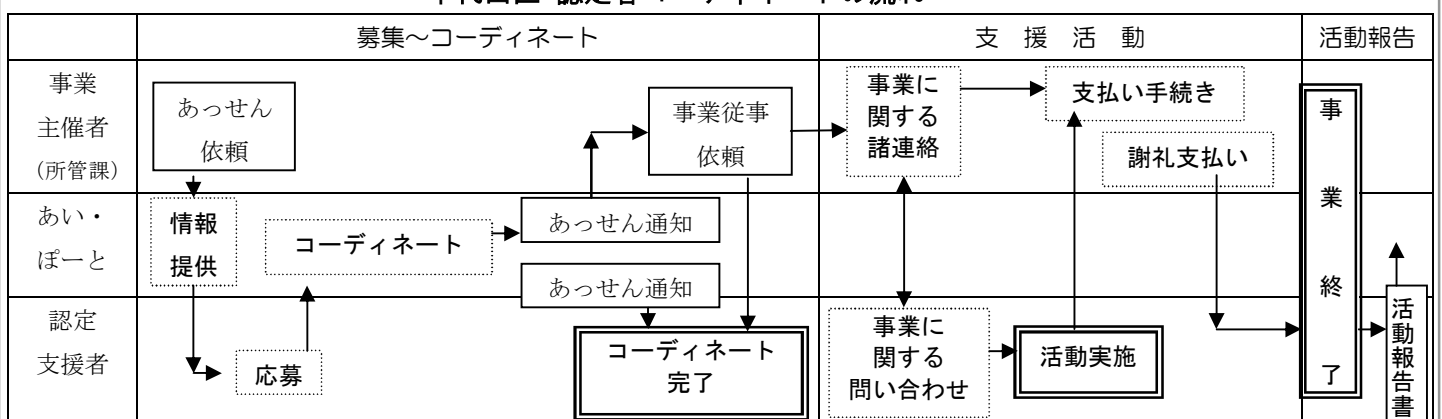
コーディネート報告

千代田区では、1月から支援者の皆さんの活動がスタートしています。児童館の一時預かり保育、または学童クラブの手伝い等が1月半ばからスタート。各児童館に数名ずつがかかわり、交代で活動しています。区主催事業実施中の「いつとき保育（各種講座や会議中の保育）」の募集も不定期ですが、依頼が集まっている状況です。その他、区立小学校での介助員、また区立保育園の臨時職員として認定者の方が採用となりました。

あい・ぽーとは支援者の皆さんの活動の紹介、事業主（区の所管課）側への人材のあつせん、バックアップ研修、ニュースレター等で、支援者の皆さんがよりスキルアップし活動しやすいように常時サポートをしていきます。新しい試みなので、支援者の皆さんからの意見も随時受け付けています。

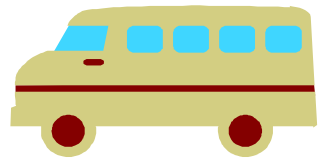
二月六日に行われたバックアップ研修後、千代田区次世代育成支援担当課の中島課長からご説明いただいた千代田区認定支援者のコーディネートの流れについて、下記の通りご紹介致します。

千代田区 認定者コーディネートの流れ



浦安市施設見学レポート

○ポピンズナーサリー新浦安
○浦安市青少年交流活動センター
うら・らめ〜る



整備の参考になるかもしれません。

二つ目は、平成十七年十二月オー
プンの「浦安市青少年交流活動セン
ターうら・らめ〜る」。この施設は
東京デイズニールゾートの㈱オリエ
ンタルランド社との共同事業で建て
られた施設です。指定管理者制度の
もとで運営されています。

子育て・家族支援者養成講座3級
の施設見学は、市役所から貸切バス
で出発し公設民営の2施設を訪れ
ました。浦安市は、「市民にとって
いい事業になるなら民間にも積極
的に任せていきたい」という考えを
もつ自治体の一つです。

一つ目は、平成十八年四月オーブ
ンの「ポピンズナーサリー新浦安」。
ニュータウンが広がるJR京葉線
新浦安駅前にあるブラザマールの

浦安市にこういう施設があること
を知らない受講生も多く、もつと市
民にPRしてほしいという感想もい
ただきました。



△ポピンズナーサリー
新浦安



△浦安市青少年交流活動センター
うら・らめ〜る

浦安市 子育て・家族支援者養成講座3級第1
期修了生を対象に、二月七日(水)、第一回バックア
ップ研修が開催されました。参加者は四十二名で、
久しぶりに顔を合わせた皆さんは、同窓会のような
雰囲気でした。今回のテーマは「活動状況報告およ
び課題解決に向けた助言」。講師は、あい・ぼーとス
テーション代表理事・大日向雅美が務め、まとめの
セッションには浦安市子育て家庭課長・寛尚行さん
も参加されました。

「これまでにどんな活動をしたか」「問題点は何
か」を主題としたグループディスカッションでは活発
な話し合いがなされ、すでに活動されている方が多
数を占める浦安市ならではの活動内容でした。大
別すると①親対応に関する疑問②保育のあり方
③活動に入る一歩手前の不安、「なぜ活動が踏み出
せないでいるか」でした。

①について。「保育園で仕事をしていると、挨拶の
できない親が多いように感じる。コミュニケーションが
うまくとれない現状に、職員よりも私たち支援者の
ほうがそのことを心配し、気遣っている」。講師の大
日向代表からは、「マニュアル対応の話も聞いたこと
はあるが、挨拶ができていない人には、こちらから挨
拶し続けてみては。そういう雰囲気地域に広めて
いくのも支援者の役割」、「子育て支援は、親と同じ
地平に立つこと、また時には何歩か下がって信頼し
見守ること。何かおかしいと思っても、まずは人を
信頼し変わることを待ちましょ、とのことでした。

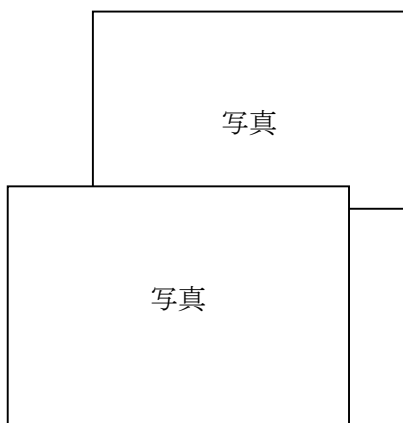
②については、「家庭やまちの中の一時保育でも、
子どもとのふれあいや自主性を育てる努力がなく、
ビデオやテレビに頼りすぎなのではと思う。この講座

で学んだ後、気になった」とのこと
でした。考えてみますと、私たちも手遊び・伝承
遊びのようなことを知らない面もあります。今
後の研修で学べるようにしていくことを約束し
ました。

③は、「自分が孫以外の子とかかわったことが
ない」「体力への不安」「事故があつたら」「家族
の理解を得ることに躊躇する」などがあげられ
ました。寛課長からは、活動の内容を考えなが
ら、今後も日常的に支援者の相談を受け、活
動しやすい環境整備に努めること、活動ごとに
違う事故補償をわかりやすく整理したい、とい
う話をいただきました。

他にもたくさんの方の興味深い意見交換があり
ました。この研修は、支援者を支援すること、
支援者のスキルアップが目的です。これからも、
子育て・家族支援の活動を通じて課題を抱えて
も、「バックアップ研修がある」ということを支え
に頑張っていただけよう、私たち法人も力を
尽くしていきたいと思えます。

浦安市 バックアップ研修レポート



寛課長も参加してのディスカッション

浦安市

浦安市 子育て・家族支援者

養成講座3級受講修了生

第二回 バックアップ研修のお知らせ

第二回の浦安市 子育て・家族支援者養成講座受講修了生対象、バックアップ研修を左記の通り開催致します。

日時平成十九年三月七日(水)

午前十時から十二時十五分

場所浦安市文化会館三階 大・中会議室

(保育室第二練習室)

内容二部構成

I. 「出血の止血法及び咽喉に詰まらせた異物の除去など応急手当の基礎知識」

講師浦安市消防本部警防課救急係職員

II. 「活動状況報告

及び課題解決に向けた助言」

講師あい・ぽーとステーション代表理事

大日向 雅美

「ご出席の方は二月二十三日(金)までに浦安市子育て家庭課(TEL:047-351-1111・FAX:047-304-1505)までお申込みください。

※札幌市のバックアップ研修の様子は次回特集します。お楽しみに。

千代田区

千代田区 子育て・家族支援者

養成講座3級受講修了生

第二回 バックアップ研修のお知らせ

第二回の千代田区 子育て・家族支援者養成講座受講修了生対象、バックアップ研修を左記の通り開催致します。

日時平成十九年三月十九日(月)

午後二時から三時半

場所西神田コスモス館二階 記念室

詳細は決まり次第FAXにてご連絡させていただきます。

「子育て支援の草の根活動に応援団

読売新聞大阪本社主催の「よみうり

子育て応援団大賞」の募集がスタート

しています。この企画は、「子育てサ

クル」や「男性の育児参加」「女性の就

労支援」「子どもの福祉」など、子育て

支援活動を行っている民間のグループ

や団体を表彰、受賞団体の活動や運営

を応援団講師が支援するという面白い

企画です。活動分野や活動年数、構成

員の人数などは問わず、発展途上のグ

ループなど幅広い団体を対象にしてい

るところがユニークです。支援者の皆

さんの中にはすでに地域で積極的に活

動されている方もたくさんいらっしゃ

います。全国に、皆さんの活動を発信

するチャンスの一つとしてご活

用されてはいかがでしょうか。

か。応募締切は5月末です。

詳しくは読売新聞大阪本社

のHPでご覧いただけ

ます。

なんで「ろいまた」??

ニュージーランドのマオリ族の言葉と言っても皆さんピンと来ない方がほとんどではないかと思ひます。あい・ぽーとの多くの事業はニュージーランドの「プレイセンター」の理念を基本の1つとしています。マオリ族の考える「地域みんなで子育てしよう」という発想は、私たちの活動の柱となる視点です。このニュースレターを通して3自治体が協力し、共に高め合い、よりよい子育て支援の「絆」が全国に広がっていくことを願って、この名前が付けられました。



事務局から

各地で研修が始まりました。柔軟な子育て・家族支援に向けて学び続けることが喜びとなりますように。(林)今回は楽しみにしていたバックアップ研修に参加できず本当に残念です。皆さんの感想を聴かせていただいて熱気が伝わってきました。次回こそ!(小貫)養成講座も一段落し、今後は皆様の活動のコーディネートというサポートが始まりました。何かと不慣れですが、皆様のお役に立てるよう精一杯がんばりたいと思ひます。(畑村)温暖化の影響でしょうか、雪が少なく、今のところ雪かきの苦労がない札幌です。バックアップ研修の申し込みが続々と入り、みなさんの関心の高さを感じております。そんなみなさんにお会いするのが楽しみです。(これをご覧になる時は研修終わっていますね。)(後藤)北海道各地で冬のイベントが行われています。暖冬と言ってもやはり寒いですね。みなさんの子育て支援に対する熱き思いで春を呼び込みましょう!(美馬)

* 今月のおすすめ本 *

あい・ぽーとステーション理事 遠山 洋一先生の著書です。

「子どもの力 おとなの力」

～家庭と保育園が織りなす「保育・子育て」～

遠山洋一／著 筒井書房／発行

私ども法人の理事である遠山先生が園長を務める「バオバブ保育園 ちいさな家」の「園だより」。この本はここでの「園長のコーナー」の言葉を一冊の本にまとめたものです。子どもの姿や保育者たちのねがい、現在の保育園がおかれている政治的状況や、戦争、平和のこと、ご自分の言葉で分かりやすく綴られています。

遠山先生が見つめる子ども、保育、子育て、そして社会への視点から、たくさんのヒントがもらえる一冊です。

